

第17回

特集 SRお客様交流会

第2回

SRグランプリ 結果発表

2013年9月11日(水) 大田区産業プラザPiO

データ・テック創立30周年を迎え、今年2回目のお客様交流会。今回も96社173名のお客様にご参加いただきました。SR導入後9年目を迎えたトータルビルシステム事業者様の事例や、第2回を迎えたSRグランプリ結果発表と表彰式、スマートフォン対応SR製品「Safety RecII -OBD-」の発表など、30周年記念にふさわしい充実した内容で活況を呈しました。

SR導入から9年目を迎え、さらなる効果アップに果敢に挑戦

三菱電機ビルテクノサービス株式会社
安全衛生本部 参事 渡部 悟志 様



所在地：東京都荒川区荒川7-19-1(本社) 事業内容：トータルビルシステム事業
事業拠点は全国約280カ所 SR導入：SRPocketおよびSRComm
設立：1954年4月 1,488台(延べトライアル導入)
代表者：代表取締役社長 石川 正美 2005年2月より全車導入し、現在SR搭載
車両は約1,200両

三菱電機ビルテクノサービス株式会社 様

✓ SR運転診断得点 **平均80点以上**

※導入当初の40点台から約40点以上UP

✓ **安全運転が社員の体にしみつく!!**

※業務やプライベートを問わず、運転がやさしくなった

導入9年目、社内の仕組みづくりや安全啓発活動が実を結ぶ

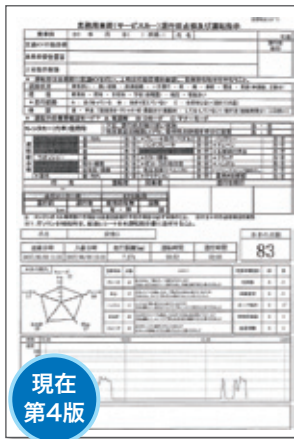
お客様に「安全」「安心」「快適」を提供することを旨とし、社名を冠した車両で公道を走ることは「運転マナー＝会社への評価」となります。「車両事故の加害者はもちろん、被害者にもならない」「車両運転も業務の一環」として車両事故0を目指す活動に取り組み続けました。2004年よりSRの試験運用を開始。SR導入や運用、ドライバーや管理者への教育、安全運転日誌の改訂(現在第4版)など様々な取り組みを行ってきました(SR NEWS vol.51をご参照)。SR導入後、安全運転啓蒙活動として、安全運転に関する情報を毎月発行。また、危険に関する感受性向上に向けた「感性向上訓練」を導入実施。SRデータによる客観的な教育、指導により、様々な効果が得られました。

バック運転と駐車場内の事故ゼロを目指して全社での新しい取り組み

SR導入で得られたのは、「①上司の運転に対する意識・指導内容・フォロー」「②ドライバーと管理者とのコミュニケーション」「③燃費」——の3点が向上したことです。またSR搭載車による安全運転が常習化することで、ドライバーがマイカーにおいても「穏やかな運転」になり、プライベートでの事故防止にも大いに役立ちました。SRによって事故削減や燃費向上などの効果が得られましたが、さらに一歩踏み込んで次のステップを目指し、「バック運転中」「駐車場内」の2つのチェックポイントを挙げました。この2つを改善するために「目視呼称の徹底」「同乗者による誘導」「乗り込み前後の後方確認」などのルールを徹底させていますが、単独搭乗時の軽微な事故がなかなか減りません。この課題を解消すべく、「SRVDigitacho」導入を検討中です。バック運転中のドライバーの様子を映像記録し、目視呼称が習慣化されているかを確認・指導することで、効果的な事故対策が取れると考えています。さらに運転者、管理者へ「安全運転サイクル下敷き」を配布。ドライバーと管理者の役割を明確化し、安全運転サイクルとして実施するための啓発を行っています。



▲ SR導入後、9年目を迎えた三菱電機ビルテクノサービス。写真は、同社のドライバーと管理者による運行チェックの様子。運行前後の日報を介した両者のやりとりにより安全運転指導が効果的になり、コミュニケーションも密になったという



現在
第4版

◀ データ・テックの協力のもと改訂を続けた日報。日報とSRデータをリンクさせることで、ドライバーの運転の「見える化」を実現し、管理者も適切な安全運転指導が行えるようになった



▲ 感性向上訓練(交通SUT)シート。2005年にSRトライアル導入をきっかけに様々な安全啓発活動を実施



▲ 「安全運転サイクル下敷き」。運転者、管理者へ配布。運転者と管理者が、運転前・中・後で何をすればいいのかが要約されている

得点が上がらないドライバーの 運転技術のボトムアップを図る

SRの点数アップと運転技術向上は、「個人特性に行き着く」と感じています。無事故を推進し、会社全体の安全運転レベルをアップするためには、「運転にムラがあり、SRの点数が上がらない」「SRの点数を気にしない」というドライバーの底上げ的な指導や教育、対策が求められています。

SR導入をきっかけに活性化した社内の安全運転啓発活動を継続化しつつ、前述した映像を元に、新しい指導や対策を含めた施策に取り組もうと考えています。

常に仕組みを見直しながら 新施策によるスパイラルアップを!!

SR導入後、試験運用を含めて9年目を迎え、ほとんどの社員に安全運転が身体にしみついてきました。「叱るツールではなく褒めるツールであること」という意識も浸透しました。「仕組みのマンネリ化防止」を図るためにも、**自社の現状にあった安全運転の仕組みを作り、定着させながらスパイラルアップ**させていくことが求められています。

これからは、SRを褒めるツールのみではなく厳しく指導するツールとしても活用し、作業、車両運転における安全意識の向上に努めていきたい。「**自分の安全は自分で守る**」「**部下の安全は上司が守る**」「**社員の安全は会社が守る**」——を旨とし、「安全運転も、安全作業も業務の一環」として、社員の危険に対する感受性を高める施策・方策と、社内風土をつくり上げることが、無事故・無災害達成につながると確信し、自社の実情に合った継続的な改善活動を実践し、安全職場を実現していきたいと思っています。

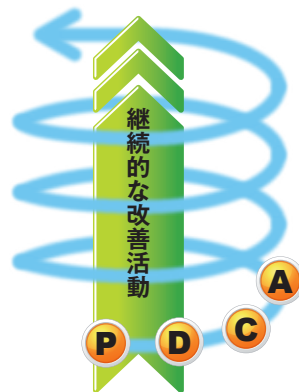


▲ 駐車場でのバック運転中の事故対策として有効なのが、同乗者による誘導。単独搭乗時には目視呼称が事故抑止策になる



▲ 目視呼称の徹底化を図るためにも、「SRVDigitacho」は有効と考えている

スパイラルアップ



▲ 継続的な改善活動を続けながら、SRによる取り組みや安全啓発活動などの施策をスパイラルアップさせることが大切であり、それが安全対策のマンネリ化防止にもつながる。「ビル」の安全作業と同様、安全運転も業務の一環であると、波部参事は述べた

第2回 SRグランプリ結果発表と表彰式

No.1! SRドライバー&企業が決定

日々、SRを利用される企業やドライバーが、SR得点を全国規模で競い合うSRグランプリ。その第2回の表彰式が、交流会にて行われました。第2回の参加総数は、企業数27社、営業所数54、ドライバー591名におよびました。名実ともに、安全運転の優秀企業やドライバーが決定。部門別団体賞と部門別個人賞ごとに、その栄誉をたたえました。



▲ 各部門ともにわずかな得点差をしのぎ合う高レベルでの集計結果だった。データ・テックの田野代表取締役より、表彰状やトロフィー、記念品が授与された。写真左は、団体賞小型トラック部門 第1位の前原運送株式会社 西宮営業所様。「SR導入して8年目を迎えて走行中の事故は0(ゼロ)に近い」という。現在は、バック事故が減らないため、その削減が課題と述べた

個人賞 乗用車・小型・中型・大型トラック部門は、弊社サイトをご参照ください。
<http://www.datatec.co.jp>

団体賞 乗用車部門

- 第1位 株式会社オリエンタルペーカリー 大阪販売所 86.40点
- 第2位 株式会社ススケンロジコム 岡崎営業所 77.79点
- 第3位 株式会社ススケンロジコム 一宮営業所 76.38点

団体賞 小型トラック部門

- 第1位 前原運送株式会社 西宮営業所 98.34点
- 第2位 関東通信輸送株式会社 97.35点
- 第3位 桜物流有限会社 97.06点

団体賞 中型トラック部門

- 第1位 株式会社モンリク 本社 99.12点
- 第2位 新雪運輸株式会社 野田営業所 96.59点
- 第3位 新雪運輸株式会社 鶴ヶ島営業所 95.28点

団体賞 大型トラック部門

- 第1位 株式会社モンリク 日田支店 99.65点
- 第2位 株式会社モンリク 本社 99.51点
- 第3位 関東通信輸送株式会社 99.01点

祝 データ・テック創立30周年

創立30周年を迎えたデータ・テック。本交流会においてお客様をはじめ、関係各社様から多数のお祝いの言葉をいただきました。その一部をご紹介します。

食品物流に特化したトラック運輸業を営む弊社は、創業以来、いろいろな事故を経験しました。結果的にドライバーが加害者になってしまうという現実もあり、「絶対安全」を第一と考えていましたが、つつい精神論的な指導や教育にかたよりがちでした。SR導入によってドライバーの運転を数値化できるようになり、客観的なデータによる運転特性分析や安全運転指導ができるようになりました。現在、全車750台に導入済みであり、ドライバー約1,250名の月ごとのSR平均点も、91点前後に向上しました。“運転を数値化”することで、**ドライバーが自らの運転を振り返り、安全運転について自然に考えるようになる**という点でSRは非常に有効なツールだと実感しています。安全運転の技術向上とともに、その結果として燃費効果も大いに高まりました。

(アサヒロジスティクス株式会社 取締役副会長 小川 修 様)

SRを全車導入した2006年から7年間のお付き合いになります。当時、デジタコ全盛の中、映像や運転行動が残るSRを採用。その結果、弊社の事故が激減し、SRの高い有効性を確信しました。その後、東京都トラック協会にて石原前都知事のご協力をいただき、補助金の拡充が進みました。ドライブレコーダー製品の普及により、東京都トラック協会会員の警視庁管内における死亡事故は半減しました。

SRや他のドライブレコーダーにより、ドライバーをはじめとする何人もの尊い命を救うことになり、本当に嬉しく思います。今後も独創的な発想の新製品を出していただき、交通事故が減少することを期待しています。

(多摩運送株式会社 代表取締役会長 星野良三 様)

※交流会にてご紹介いたしましたご祝電より



◀ご祝辞をいただいたアサヒロジスティクス株式会社の小川副会長。その他、多数のお客様、関係者様よりご祝電をいただきました

その他にも佐賀大学大学院 堀川教授より、「一般高齢者による注意喚起」と題して、高齢者一般ドライバー対象のSR応用実証試験に関するセミナーが行われました。



意見交換会 (分科会)

運輸業界での最新&ホットトピックスについて 異業種のお客様同士がディスカッション!!



■ 車載機器の明日

- 黄色信号で停止しない車の検知、制限速度標識の認識、車間の点数化、SRデータの自動取り込み等の機能が望まれる
- リアルタイムによる挙動検知を行い、そのまま本社へ知らせる
- バックカメラとの連携強化を図り、降車し後方確認しないとバックモニタが作動しないようにする

■ SRデータを有効活用する方法

- 管理者がドライバーと密にコミュニケーションをとることでマンネリ化を防ぐ(特に点数の変動が激しい人に気をかける。高得点者が多いと安心せず、個人の変化に敏感になる)
- 表彰制度は、高得点だけでなく点数アップ率にも考慮し、低い点数の人でも積極的な参加ができるようにする

■ バック事故・構内事故の現状と今後の対策

- バックモニタの利用や、社内ルール決めをしても、なかなかバック事故が減らない。SRの機能強化が望まれるとともに、ドライバーの安全意識に深く染みこむ指導が必要
- ルールの徹底化と、繰り返しによる声かけ(注意喚起)の実施

■ 映像を使った事故予防

- 映像確認だけでなく、目視確認の両方が大切
- 車内カメラは有効だと思うが、プライバシー問題や社員からの抵抗もあるので、会社と社員での意識共有が必要になる
- 映像はKYTで大いに役立つので、ヒヤリハット映像による指導を行い、DVD配布や社内サーバに保存して情報共有する

■ 燃費管理について

- 満タン法を実施する会社がほとんど。車両種別や特性によっては正確な燃費が取れない
- 『FuelCompass』は、停止や走行時での燃費確認が可能
- 東京都トラック協会の燃費評価制度が注目を集めており、今後は国全体での流れとなる
- 燃費計測装置の導入とともに、社員の意識変革をうまく促す

■ ISO39001「道路交通安全マネジメント」

- 認知度は低いですが、安全面において運輸業を中心に注目が高い
- 事故をなくすPDCAサイクル作りに役立つ。取得により企業イメージアップや他社との差別化が図れる



スマートフォンでOBDによる燃費&車両診断実現を目指す!! SafetyRecが早くもOBDⅡに対応

電子制御が進むクルマの 点検・整備に必要な不可欠なOBDとは

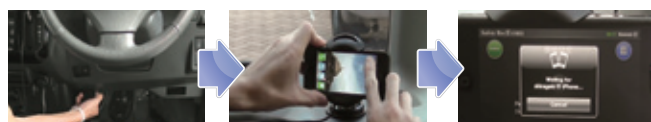
発売以来、好評を得ているスマートフォン用SRアプリ『Safety Rec』。データ・テックは、SRお客様交流会にて車両診断機能規格「OBD (On-board diagnostics)」対応の『Safety RecⅡ-OBD-』を発表した。近年、車両の電子制御化が進み、一般的な乗用車で30~40基(高級車では100基以上)のECU(Engine Control Unit)が搭載されている。ただし、自動車メーカーごとに部品や信号などの規格が異なる状況だったため、車両点検や整備の際に様々な不都合があった。90年代半ばにOBD規格が制定。国内でも「J-OBDⅡ (以下OBDⅡ)」規格が導入され、2008年10月から同規格準拠の乗用車が登場。続く2014年1月からは大型トラック等の業務用車両にもOBDⅡが適用される。

OBDから得られる燃費関連情報を スマートフォンに表示可能に

Safety RecⅡは、OBDⅡ対応することで走行中の燃料情報をスマートフォンに表示。これにより、「走行時の速度」「エンジン回転」「スロット開度」の情報を、パルス信号ではなくOBDⅡから取得。その他、「瞬間燃費」「アクセル開度」「外気温」情報も得られる。さらにアイドリング時間や燃費、CO₂排出量も確認可能だ。データ・テックでは、Safety RecⅡを利用することで得られる車種ごとの個別燃費や外気温と連携したリアルタイム気象情報などのビッグデータ化を検討中である(同製品の正式リリース時期は、未定)。



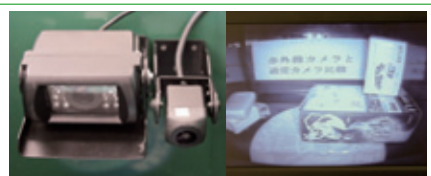
▲ SRお客様交流会のデータ・テックブースにて展示された『Safety RecⅡ-OBD-』。右上の「OBDアダプタ」を介し、スマートフォンと接続。モニタ画面に「速度」「エンジン回転数」「アクセル開度」「瞬間燃費」「アイドリング時間と燃費」などが表示可能



▲ セットアップは、①「OBDⅡアダプタ」をセット、②スマートフォンをクレドールに固定、③アダプタを認証——の3ステップで完了。誰でもカンタンに取り付けられる

注目!! 参考出品

SRV Digitacho用赤外線カメラも参考出品(左)。車両に3台まで搭載でき、暗所でも危険映像が記録できる(右)



SRデータと動態情報をクラウド上で一元化

docoです car Safety

人とくるまのテクノロジー展セミナーレポート

ドコモ・システムズ株式会社は、今年5月に開催された「人とくるまのテクノロジー展2013」にてクラウド型安全運転支援サービス『docoです car Safety (以下Safety)』に関するセミナーを行った。Safetyは、データ・テック製SRの技術とドコモ・システムズのクラウド技術が融合したもの。運行管理や事故削減に必要なSRデータをクラウド上で集約することで、全国に点在する営業所のSRデータを本社にて一元管理。いつでもどこでもドライバーの運転診断結果を確認でき、さらに本社への報告業務や集計・管理業務の軽減も図れ



▲ プレゼンセミナーにて登壇されたドコモ・システムズ株式会社の杉山 様(写真右)る。また、今後のサービス展開として、SRと動態管理サービス「docoです car NEXT」との連携も予定している。同社は、運送事業者、バス事業者などが道路交通安全マネジメントシステム「ISO39001」取得にあたる際にも、Safetyは大いに役立つツールであることを強調した。

Event Information

日本最大級 異業種交流展示会 メッセナゴヤ2013

● 2013年11月13日(水)~16日(土) ● 名古屋・ポートメッセなごや(ブースNo.21-2)

全国の異業種ビジネスマンが集う、国内最大級の異業種交流展「メッセナゴヤ2013」に、データ・テックが初出展いたします。ブースには、新製品を含む、SR関連製品を多数展示します。様々なデモや事例をご紹介しますので、お気軽にお立ち寄りください。

SR展示相談会 SRお助けセミナー

全国各地にてSR展示相談会とSRお助けセミナーを実施中です。関東地区と近畿地区では毎月、東海地区は隔月に開催。相談会とセミナーのスケジュール詳細は、データ・テックのホームページ「イベント情報」をご覧ください。
URL: www.datatec.co.jp

第18回 SRお客様交流会

● 2014年2月21日(金) ● 東京・大田区産業プラザPiO

2014年最初のSRお客様交流会です。SRを日常業務に使い、安全&燃費効果を上げる企業様の最新SR導入事例や、第3回SRグランプリ中間報告、SR新製品の発表など、SR情報が「満タン」の交流会を予定しています。